



国指定史跡

左の2枚の写真は、国指定史跡に指定された通洞坑(写真①)と宇都野火薬庫跡(写真②)です。通洞坑は足尾銅山観光で一般に公開されていますが、宇都野火薬庫跡は現在、安全管理上の問題などから公開されていません。

これまでの経緯

- 平成5年度
 - (財)広域関東圏産業活性化センターの足尾地域開発基本構想策定調査報告書「エコミュージアムあしおの創造」により、旧足尾町において銅山の産業遺産を主体とした全町博物館化を構想
- 平成8年度
 - 旧足尾町により「エコミュージアムあしおの創造」整備構想策定報告書を策定
- 平成14年度
 - 国土交通省関東運輸局の「産業遺産を活用した観光振興方策策定調査報告書」で、足尾に残る産業遺産は世界遺産級の価値を持つとの提言を受ける
- 平成15年度
 - 「エコミュージアムあしおの創造」に向けて宇都宮大学との共同研究事業を開始
- 平成16年度
 - 旧足尾町により「エコミュージアムあしおの創造」環境のまちづくりを策定
- 平成17年度
 - 旧足尾町において世界遺産登録を目指した各種の取り組みを開始
 - 宇都宮大学との共同研究により足尾の産業遺産の現状調査を開始

市では昨年9月に、足尾銅山の世界文化遺産への登録を目指し、提案書を県と共同で文化庁へ提出しました。今回、文化庁より調査・審議結果が公表されましたので、その内容とこれまでの経緯、今後の取り組みなどについてお知らせします。

審議結果の概要

今回、全国から提出された32件の提案のうち、5件が新たに世界遺産国内暫定一覧表に記載されました。また、日光市の提案「足尾銅山―日本の近代化・産業化と公害対策の起点」を含む27件が、世界遺産暫定一覧表候補の文化資産となりました。

市長のコメント

文化庁の9月26日付の調査・審議結果の公表を受けて、市長は次のとおりコメントを発表しました。

本日、文化審議会文化財分科会世界遺産特別委員会より、世界遺産暫定一覧表追加記載提案に係る調査・審議結果が公表されました。

日光市が昨年度より進めてま

いりました足尾銅山の世界遺産登録に係る取り組みにつきましては、今回の審議では暫定一覧表へ記載されることにはなりませんでした。

しかし、これまで新たに2件の国指定史跡の指定を受けたほか、古河機械金属並びに古河電工の社内文書の調査に着手するなど、大きな成果を挙げることができました。

また、足尾地域のNPO法人など、市民団体による世界遺産登録を目指した活発な地域づくりも進められています。

今後とも世界遺産登録推進のため、与えられた課題の解決に向けて、さらなる取り組みを継続してゆく考えです。

平成20年9月26日
日光市長 斎藤 文夫

(2か年継続)

- 平成18年度
 - 前年度に引き続き、宇都宮大学と共同研究事業により足尾の産業遺産現状調査を実施し、調査報告書をまとめる
- 平成19年度
 - 教育委員会生涯学習課に専任職員1名を配置し、日光市として本格的に世界遺産登録への取り組みを開始(4月)
 - 宇都宮大学と市の相互友好協力協定の締結により、宇都宮大学による足尾の産業遺産の保全と活用をテーマとした重点推進研究事業(3か年継続)を開始(4月)
 - 宇都宮大学との共同研究事業を継続(4月)
 - 学術関係者や地元市民団体などによる日光市足尾銅山の世界遺産登録推進検討委員会を教育委員会に設置し、文化庁が公募する世界遺産暫定一覧表追加記載提案のための協議を開始(5月)
 - 市検討委員会の提言を受けて、足尾銅山跡として「通洞坑」と「宇都野火薬庫跡」の2件を国指定史跡に申請(7月)
 - 市検討委員会での協議を経て、県と共同で「足尾銅山―日本の近代化・産業化と公害対策の起点」とした暫定一覧表追加記載の提案を

今後の取り組み

文化庁の調査・審議結果により提示された課題などを整理し、市の世界遺産登録推進検討委員会委員や文化庁、栃木県教育委員会の助言を受けながら、引き続き世界遺産登録を目指した事業に取り組んでいきます。なお、これからの取り組みの具体的な内容については、今後の広報紙で紹介していきます。

文化庁へ提出(9月)

- 市検討委員会の学術関係委員を中心に現地・文献調査を開始(9月)
 - 「通洞坑」と「宇都野火薬庫跡」が国指定史跡に指定(3月)
 - 平成20年度
 - 教育委員会事務局生涯学習課内に世界遺産登録推進室を設置(4月)
 - 宇都宮大学(継続)、お茶の水女子大学(新規)と世界遺産登録に向けた共同研究事業を開始(5月)
 - 前年度に引き続き文献調査、学術関係専門家などを招き現地調査(5月)
 - 足尾銅山跡調査報告書を発行(7月)
- くわしくは
生涯学習課 世界遺産登録推進室